

渡部 慧志

大震災が起きた時、ぼくは家におおあち
 人とお兄ちゃんといきました。ぼくが二階から
 下りてきた時に地震が起きました。お父さん
 が草がりから帰って来ました。しばらくして
 おたまたまおたのび二階に行ってみたらタ
 スがたおれていました。台所では皿がた
 れました。となりの部屋はガラスがた
 れました。ぼくは福島市の小学校に一年生で入
 学しました。福島市の学校ではみんなにタ
 ンクしてもらいました。

どんな福島県にしたか、え、心
 て遊ぶところにしたいです。震災前は海に
 行けたので春海に行けるようにしたんです。
 公園でも遊ぶようにしたんです。それから
 放し、線を気にせず、いろいろなところに行
 けるようにしたんです。ものすごく長いすべ
 りたいで思い、きりすべりたいです。七十五
 メートルぐらいのすべりたいです。た
 らす、長く気持ちがいいと思います。

佐藤 颯紀

352

南相馬市立太田小学校 10歳

佐藤 颯紀

大震災が起きたときわたしはようち園にい
ました。急に地しんが起きて、先生が、
外ににげて。

とさげんだので、あわててにげました。校庭
のまん中にひなんし、家の人がおかえにきた
人から帰りました。

わたしは福島から新がたに行きました。わ
たしはマンションに住みました。四月になり
三条小学校に入学しました。教室に入ると南
相馬市とはかんい気がちがったのでびっくり

しました。わたしはぜんぜんしゃべれなかっ
たのですが、いたがきゆいなちゃんという友
達がしゃべってくれたのです。ごとうれしかっ
たです。

南相馬の公園は大震災後遊べるところが少
なくなりました。木にきのこがはえているの
でとってほしいと思っています。きのこがと
れたら安全に遊ぶのでうれしいです。すべ
りたいをもっと長くしたらみんなが楽しく遊
べます。

木幡 凜

大震災が起きた時、ぼくはお母さんと家にいました。最初、ぼくは二たつの中に入っただけど、地しんがすごく強いので、急いで外に出ました。その時は電話がつながって、お父さんがお兄ちゃんをおかえに行ってくれました。地しんがおさまったら家に入りました。外に出ないで、何日か家にいました。

その後、ぼくは宮城県のおじいちゃんの家に住んでみました。宮城県の学校には友達がいなくて、みんなとあまり仲良く遊ばせませんでした。

た。たまに学校に行きたくなくなりました。

ぼくは、福島県を子どもが遊べる公園がたくさんあって、ほっしり線が全くなくて安心して遊べる安全な県にしたいです。もう一つは海で海水浴ができて、遊ぶ楽しい県にしたいです。福島県を子どもが安全に遊べる県にしたいです。

奥村 美羽

わたしは、大震災があった時は、ほいく園にい
 ました。ほいく園でねていたら、ほいく園の
 先生が、「大変です。地しんがおきました。み
 んな起きて」とさげんだので、わたしは先生
 の声で起き、園庭のまん中に行きました。そ
 して、じしんがおさまった時にお父さんにお
 むかえに来てもらいました。家へ帰った後も
 まだ地しんがつづいていました。その後わた
 しは神奈川県の小学校に入学しました。小学
 校の人はすごくやさしか、たです。

わたしは、早く放射線量が低くなってほし
 いと思います。近くても行けないところがあ
 るので、行けるようにしてほしいです。わた
 しは南相馬市馬車こうえんに行つたことがな
 いので行ってみたいと思います。馬車公えん
 で思いきり遊んでみたいと思います。わたし
 は東京にあるような大きいスポーツ施設を建
 ててほしいです。サッカーや野球やバレーが
 出きる場所をつくらせてそこでみんなとスポー
 ツをやりたいです。

宮 寺 楓

とつぜん地しんが起きたとき、わたしは、
 太田幼稚園にいました。そのときは、昼寝を
 してたところでした。起きたら急に地しんが
 きて、みんなで庭に集まりました。い、たん
 ゆれがおさまったときに、おじいちゃんとおばあ
 ちゃんがおばあちゃんがむかえに来てくれました。家
 に帰ってみたら、地しんで花の花びんがわれ
 てしまいました。お父さんが海の近くで働い
 っていたので、心配になって電話をかけてみた
 らぜんぜん通じませんでした。何回も何回も

電話をかけても通じませんでした。わたしは
 とても不あ人になりました。

わたしは、地しんや大震災のない死者も出
 ない福島県になってほしいです。理由は、死
 者とかが出ると福島県の人口がへってしまう
 からです。人口がへらないような福島県にな
 ってほしいと思います。東日本大震災がなけ
 ればひなんしなくてもよかったです。たのになあと思
 います。わたしはひなんするのがとてもいや
 です。

村田栞理

大震災が起きた時、わたしは、家にお父さんとお母さんとわたしの三人で、ました。震災が起きたとき、わたしはほく園の子どもでした。わたしは地しんがこわかったです。お父さんとお母さんとわたしで、原野第三中学校に行きました。そこで、多くの人のこわいような表情がありました。そして、ほく園の先生がわたしたちを見つけて、「たいていぶか」と言いました。つなみもまだいといふこといふことがわかりました。その

後、わたしは、群馬県に行きました。群馬県では、みんなやさしくしてくれてとても楽しかったです。その次に南会津に行きました。雪の多いところでした。その次に相馬にも行きました。学校にまっすべり台もありました。

わたしは、安心して遊ぶとても広い公園をつくってほしいです。そのめけは、みんなでいっしょに楽しく遊ぶことです。だから

大震災が起きたとき、ぼくは、ほいくえんのりんご組でした。ぼくたちが、遊んでいたとき、先生が「地くんだ」と言いました。ぼくたちは、つくえの下にみんながぐくれました。ちよとのおさまるとき、近くにある中学校の体育館ににげました。だけど、ここでもあぶないので、中学校の中になげこみました。そこで家族がぶかえにくるのを、じと待っていました。そこへ、お母さんがきて家に帰りました。その日は、お母さんの実家

に、行きました。一泊した後に、友だちのお母さんから、れんらくがあつて、いっしょに学手に、ひなんしようと言われました。ひなんして、入学した学校は、おうしやう市水さわ小学校です。

ぼくは、南相馬市に大きな公園をつくつてほしいと思います。なぜかといつと、大きな公園で、たくさんのお友達みんなを思いせり遊べるからです。

京谷 七海

大地震が起きた時わたしは、DVDをかりに行っていました。そうしたら、とつぜん地震が起きたので外に出ると、たてものがたおれそうでした。すぐ家に帰ると、石のとうろうがたおれて家に車が入りませんでした。おじいちゃんは、屋根をなおしていて屋根の上にいました。ひいおじいちゃんは、寺で頭をまもるようにしてすわっていました。わたしが、ひなんしたところは、はじめ相馬のいとこのしんせきのところですよ。一日とまって

次の日にいとこのいる二本松市に行き二年間二本松市にいました。

どんな福島県にしたいかというと、ほうしゃせんりょうを気にしないで外にある公園でゆゆうと遊べる福島県にしたいです。それから電車を早くつなげてほしいです。わたしは電車にあまり乗ったことがないので、電車が東京都までまたつなげたら家族みんなが東京都まで行ってみたいですよ。

羽根 空

大震災が起きた時、家の二階に一人だけいま
 した。そに「ず」といたら、急に地しんがき
 て、すごくこわがたです。いろいろなもの
 が落ちてきて、すごくこわがたです。こわ
 がたけど、みんながいる場所までいけたの
 でよかったです。

しばらく地しんが続いた時は、みんなとい
 つつしゃにいたのに、こわがたです。おかあ
 さんとおとうさんと、おばあさんが話し合
 い、こしをしよとということになりました。

どこに行くのがと、たら、遠いところと言
 ったので、みんなと会えなくなるのほこびし
 いなと思いました。みんな、こしして、あたら
 く友だちがでましました。前は海で遊ぶたけど、
 今は遊べないのだから、がりでです。

ぼくがひなにした群馬県みなかみ町に、ス
 キー場がありました。南相馬市には、スキー
 場がないので、人工スキー場があれば楽しいだ
 ろうなと思います。

ぼくは、今年で六年生でしん災が3年10
 月で今思えばすごく長か、たです。
 一年生の終わりが近づいた時期、家に帰
 て宿題をしようと思、た時カタカタとゆくて
 大丈夫と思、たけどだんだん大きくな、たの
 でこおくなりました。
 そして、さい玉のおじいちゃん、人の知り合い
 の家に泊めてもらいました。
 3年10、月がた、た今でも20キロ以内で
 ある家には入れません。だから今は、借り上

げ住宅に住んでいきます。地しんや津波ならま
 だしもげんぱつのできだ帰来ません。ぼく
 は早くもどりたいけれどもほうし、のうがあ
 からだめ、てお父さん、お母さんが言うから
 ツヨクでした。早くげんぱつがなくなれば
 いいのにと思、ていきます。

早くおじいちゃん、おばあちゃんみなで
 い、し、に生活できる日をぼくは、ま、てい
 ます。

みなでい、し、に生活をもどりたいです。

1 5 10 15 20

15 20 NIPPON-HYOJUN G-111 20X20

五年 但野京牙

ぼくは、東日本大震災の時、一年生でした。
 大きな地震が起きて、初めての体験だったの
 ですけども、こわくて、とまどってしまいました。
 そして、原発事故が起きて家にいれなくなっ
 てしまいました。親せきの家を七カ所回り、
 最後は茨城でお世話になりました。二年生に
 なる時、ランドセルや、体操着を借りて、
 近くの小学校に通うことになりました。その
 時「もう帰れないのかな」と思いながらも、
 がんばって学校に行きました。

学校では、友達がたくさん出来、楽しい思
 い出が出来ました。

今は元の学校で生活がとりもどせて来たけ
 ど、ほかの友達は、まだ半分以上も帰って来
 ていません。でもぼくは、まだあきらめたく
 けではありません。ぼくは、ずっと友達を
 帰って来るのを待ち続けます。

そして、ぼくは、今いる友達と家族との時
 間を、大切にします。

1 5 10 15 20 NIPPON-HYOJUN G-1111 20x20

南相馬市原町区に住人しているぼくは、震災
 ・原発事故と体験しました。ぼくの家族は何
 か所かひな人所受、安之山形具に一年間住んで
 まだ南相馬市へ帰って来ました。震災前より
 お店のシツや病院のかんご師が年齢が若い
 人が少なく、人も不足していても大変な
 ことになっていました。

もろろく4年がたちますがぼくたちの通う
 小学校はあいかかわらず人数が増えません。少
 ないがいろいろぼくたちはかへっている

のに、それが伝わっていないくらいな気がしま
 す。原発から三十一、三井口位しか離れてい
 ない所にぼくは、住んでいるのに、どう思っ
 ているんだろう。そして今はいせくせをする
 人たちも、はいいる町に帰っています。慣
 れない道での交通事故が増えています。時に
 は、わざと道路にでてくる人もいるのでまけ
 人です。お前ないです。震災前はすごく住み
 やすい町だったのに残念です。

最初地震があった時は、まずこたつの下に
 かくれてゆれがおさまるのを待ちました。一
 たんゆれがおさまったら下しじでじょうま
 うを見ました。出たのはものすごい震度と、
 津波の予想の高さと避難しようとしている車
 の大じやのような列がとぎれとぎれで映され
 ました。それでお父さんは職場の様子を見に
 車で行きました。そしてその日の夜はろうそ
 くを一本つけて茶の間でねました。よく日に
 両親が帰って来て布団などを持って福島の大

おばさんの家に避難しました。その日から一
 ニヶ月はこの家で過ごししました。その後は家
 を二度家を変えて震災の年を過ごししました。

小学三年の時、南相馬にもどって今にいた
 ります。震災で閉店した店がまた始められる
 くらいまで復興してほしいです。

ぼくは、東日本大震災と原発事故で高平に
 あるひいおばあちゃんの家へひな人しました。
 その次に郡山へひな人しました。そして、最
 後に千葉県松戸市にある祖父母の家へひな人
 しました。約一年で実家に戻りました。学校
 へ行くと一年生の時以来の友達がいきました。
 とてもうれしかったです。でも今は、一年生
 の時の半分くらいしかいません。全校児童も
 今では震災前の半分になりました。でも、中
 学校ではたれが帰ってくるという話もあるの

で、たれが帰ってきてほしいです。帰ってき
 たら、「お帰り、元気だった？」と言いた
 いです。ひな人先の小学校は人数がたくさん
 だったので、元々人数が少なかった太田小から来
 たので、あまりなれられませんでした。たか
 ら、「早く太田小へ帰りたいた。」と思っ
 たので、太田小へ帰れたのが、とてもうれ
 しかったです。

ぼくは太田小が大好きです。

(佐々木美咲)

私は、東日本大震災のときは、1年生でし
 た。学校が早くおわったので友達の家遊び
 に行きました。宿題が終了し遊びたくてさく
 地震がなりました。がらがら、がしーし血はと
 は次々になりました。私と友達はこの中にも
 ぐりました。その日と次の日はおとよりをしたが
 ひはん所へおわりました。車の中でいて朝になつ
 たら体育館に行きました。追いつかれに。友達
 とはそこをサヨナラした。山形へ行きさい
 玉で初めての知らずい学校へ行きました。またひ
 はんをして、いばらぎの学校へ行きました。や
 と太田小学校にもどってきました。
 今の状況は、学校では、人数が五十三人と
 少ない人数だがみんな楽しく学校生活をや
 っています。
 今後進むべき未来、復興への想いは、ひん
 んしている友達が太田小学校にもどってきて
 くれたらとてもうれしいと思います。

東日本大震災“火”から、気付けば4年がたちま
 す。私はあの日から、色々な別れと新しい出
 会いを経験しました。あの日私は、友達と遊
 んでいました。そんな平和な日に、東日本大
 震災“火”は起きました。突然大きくゆれ始め、私
 は急いでテーブルの下にかくれました。不安
 で、つい泣いてしまいました。原発事故が起
 こり、一年生の私にはわけの分からない事が
 テレビで流れていました。そして、家族はき
 けんを感じたのが、仙台の祖母の家にひなん
 する事を決めました。一年間通う学校は、通
 っていた学校とちがい、児童数が多くて、仲
 良くなってくれらる人がいるかとても不安でし
 た。でも、気付けばたくさん友達が出来て
 楽しい一年を過ごす事が出来ました。だから、
 南相馬市にもどる時は少しさびしくなっ
 てしまいました。南相馬市の学校にもどると、人
 数は減っているものの、なつかしい友達が明
 るく出向かえてくれて、とてもうれしが
 ます。友達は大切な宝物だねと思いました。

1 5 10 15 20

私は、大きな地震があった時 車の中にい
 ました。とつぜん車がゆれ、お母さんのケー
 タイが鳴りました。家に帰って、大きな地震
 がつづきました。大きな地震がなつた次の次
 の日に相馬のおばさんの家にひなんしました。

相馬にひなんして、地震がなり、私はいつ
 までつづくのか分らないままでした。げんぱ
 つじいのせいで友達がすぐくへりました。

すぐくへって私はせみしかつたです。地震
 が出なければ、友達がすつといつしよにいて
 くれたのたのに。ひなんで八沢小学校と大み
 小学校にかよいました。二つの小学校にかよ
 いはじめてから、前の学校でかよつていたク
 ラスが一人だけだったのでまじくせみしかつ
 たです。今は私をへんて八人だけと合をなん
 している友達をいつか帰してくれろとしんじ
 ています。

1 5 10 15 20

東日本大震災の復興
太田小中島英治

ぼくは、その時休んでました。ぼくはも
 腹が、たくして休んでました。おばあちゃん
 と、いっしょにバスに行きました。きんば
 緑色で元気になっていました。そしたら、つ
 せん、オーという大きな音がなりました。ぼ
 くは下をむくとゆられて、いっしょに分かりまし
 た。ぼくはおばあちゃんといっしょにバス
 の出口のパイプにしがみつきました。地震が
 おさまったら、家に戻りました。すわい
 なからず、じいじを見たからお母さん、お父さんが大

津波で、いっしょに気が覚めた。ぼ
 くはお兄ちゃんをおかえに行きました。その
 時も地震が鳴り続きました。ぼくは、つ
 の小学校に行きました。最初は、八沢小学校が
 は大築小学校その後、太田小学校に帰
 ってきました。二〇一二年の一月に、じいじり
 に太田小学校で勉強をしました。大みかんと
 八沢は、せんせんおれせんでした。今の現
 状、友達全員帰ってきてほしい。地しんがなくな
 ってほしい。もう地しんと津波をなくしたい。

東日本大震災の体験と学習の思い出

大田 川久保 颯斗

東日本大震災当日はくは、2年生でした。
 震災のときはすごくこわかったです。次の日
 から、ぼくと、家族で福島のおばあちゃんじ
 いちゃんの家にもくらくらい避難してました。
 次に川俣町に避難して学校も川俣の小学校に
 がれかいことが多かったです。でも何人かが
 こえをかけてくれたときは、どきどきしてい
 たけどおかげで生きてうれしかかったです。避
 難してから三年間たつてからぼくは、原町に
 もどりました。原町の学校にもどると23人が

川人におつていてびくつきしました。だけど
 みんながよかよかできてよかったです。
 これからは、原発放射線をなくして、震災
 の前と同じようにしてほしいです。

東日本大震災の体験と復興への思い

太田、花井 颯汰

東日本大震災ではぼくは家族と一緒に避難
しました。

まず最初に行。たのはお母さんの実家の家
でした。東日本大震災の日の夜は学校の近く
の生涯学習センターに避難していて十一時こ
ろ行。たので服も汗でべたべたのまま暑苦し
くて眠れませんでした。そして一日か二日が
たつとおばあちゃんとおじいちゃんのいる実
家へ行きました。そこでは一週間くふいて
後からはずつと山の方へ避難しました。

二年ほどたつて戻ってくるよ今まで使って
いながったおばあちゃんの家泊まらせても
らいました。良い経験をしました。

今後の思いは学校も少なくなつて広がつた
ので少しは増えると良いです。おばあちゃん
は野菜を作つていただけ今は作れず花だけし
か替へられたいと言つていたので畑の土も使
えるようになったらいいなあと思つています。

東日本大震災によつてぼくは、群馬県のか
たしな村に避難しました。また、避難所も三
回移動しました。ぼくは、その時は、また二
年生でした。また避難しても、すぐには、学
校にはいけませんでしたが、そして四月、かた
しな村の学校に通うことになりました。最初
はまだなれませんでしたが、だんだんなま
ました。けれど、早くお父さんが帰ってしまっ
たので、お母さんたち五人で暮らしました。
そして、五月に、ぼくとお母さんとお兄ちゃん

と帰りました。その後、ぼくは八沢小、次
に大甕小、そして、ついに太田小で勉強でき
るようになった。

震災によつて、クラスの人数はだいぶん
減りました。けれど、学校まで歩いていけ
るようになった。

まだ、警戒区域になっている所もあると
思うので、そういう所もちゃんと除染して、
ちゃんと住めるようになった。そして、いと思いま
す。

東日本大震災は、校庭を歩いてゐる時に起
 きました。「ゴ—」という音がなりました。
 じめました。その後はお家の人に迎えに来
 てもらいました。その夜は、全然おむねませ
 んでした。その後、「あ」と家にいましたが、
 ある日のことみんなで鹿島まで行くことにし
 ました。そこには、たお木た木や流木ついで
 船などたくさんあります。びっくりしました。
 4月の下旬くらいに学校が始まり、鹿島のハ
 沢小学校に行くことになり、次におおみか、

ついに太田小学校にもついでにきました。4
 年生には、まさしくとあきとく人が帰って
 きて5年生では、な、ち、人、まらなく人は
 たくさんが帰ってきました。今はみんなと元
 気に仲良く家族も無事です。たまにはケ—カ
 もするけれどもすぐながなおりしてゐるはずで
 す。今後の想いは、早く警かに避難区域が解除さ
 れ、除せんもし、水や火、電気などが通り小
 高に早くいきたいです。

東日本震災の体験と復興への思い

太田小 板倉凜華

2年生のころ大震災がおきました。私は算
 数の宿題を忘れて、残りしてました。大震災
 がおきてから私は、新しくたにひなにして南小
 学校にいしこと転校しました。すぐに友だち
 ができて親友のちかちかと毎日あそんでま
 した。そして南小を出て福島に帰って次は、
 ハ沢小学校に行きその後で大みか小学校行っ
 て、そして太田小にもどってきました。4
 年生になると久美先生が担任になり私は私
 一人だ。たので久美先生が大好きでした。勉

強もあがりやすし宿題もあがらないところ
 は教えてくれました。そして5年の終わりに
 先生が転校しました。そして六年になっ
 た新しい先生がきました。放射線も少しある
 ので外に行ったらこまめに水あらいをしまし
 た。地震があつてから一回も会ってない友だ
 ちもいるので会ってみたいのです。

東日本大震災の体験と復興の思い

太田 渡部 稜也

東日本大震災がおこった時は、とてもこわかった。友達といっしょにいたので少しはこわくなかった。高にいる祖母を連れて、学校から帰った。三日くらい家で過ごし、その後会津若山市へ逃げた。そして、すぐに避難所じゃなくなり福島市へ逃げた。そこで学校に行き、いじめられて、八沢小へ行った。八沢小から大甕小へ行って、今の太田小学校にいる。色々な小学校に行き太田小学校に行けることがうれしいです。

南相馬市の復興は、ぼく的には、あまり復興してないと思います。なぜかという、前二年生だった人が二十四人だったのに、今六年生にな、たぼくたちは、まだ十二人しかいないからです。実に半分ももどってきてないからです。もどってきてないのは、復興がおくれているからだだと思います。早く復興してほしいです。

東日本大震災の体験と復興への思い

太田小 糸井 茄津

私が2年生の時、東日本大震災がおきた。教室は大きくゆれ、泣きながら助けるとさけぶ人もいた。津波で知り合いの家も流されたけれど無事で良かった。原発事故があり、私は父方の祖母と福島市へ避難した。新しい学校では、全員が南相馬市からきた避難者だ。だからすぐに打ち解けられた。外では遊べなかったが、おしゃべりをして楽しく生活した。しかし、ほとんどの人が一学期で南相馬へ帰ったり、他の学校へ転校した。私は、宮城県岩沼市の学校へ転入した。福島からきたことを知ったらみんなやさしく接してくれた。一年半後、元いた太田小へ帰った。みんな変わってなくて安心した。でもクラスには、23人いた生徒が私を合わせて10人になっていった。それからもう2人もとってきて、12人になった。だが、まだ約半分しかもとってきていない。もう帰ってくる人もいなくて、避難先でずっと暮らす人もいる。いつか大きくなったみんなと会って、自分達の成長を伝えたい。

東日本大震災後の体感と復興への思い

太田小

原田 彰人

東日本大しん「災」とまほ いはらとに「被災」
した。そして一年間お母さんとほはなみは
ながにな。た。

「辞」業した いばらまの学校では 朝会てひと
りひとり自己しじうかいをした。福島とほど

こかと聞いにく。人見知。た。ほくは
はずかしくしてしやべれなが。た。一月ほどは

東日本大震災はなぜおこ。たのめとまこの
空間に一年間いるのは。とてもしんどい。なと
か速く帰。た。一番天うか。た。のち

また。もとの仲間と生活した。い。な。と思いまし
た。そして一年間がたつと。福島県に。い。れ
ました。

四年の時は9人だ。た。けれど今は12人になり
ました。

復興には。まず通学路を除染してもらい、
その次にいろいろなことをして欲しいです。

ぼくは二年生の時に初めて震災を体験しま
 した。まずしても大きな地震があつて、その
 後に大きな津波もきました。しかもこわが
 たです。ぼくたちの家はすぐに避難して、山
 形県の飯豊というところの公民館に避難しま
 した。そのとなりには温泉があるところでした。
 山形はとても寒くて雪もたくさんふると
 ころでした。公民館には他にも南相馬から避
 難している人たちや他のところから避難して
 いる人たちもいました。この飯はみんなで分け

て食べたり、他の人たちとべたりしてとても
 うれしかったです。ぼくは、3年生として近く
 の学校に入学しました。この学校はとても小
 さい学校でしたがとても楽しい学校でした。

ぼくはこの震災があつてはくの家にもい
 なくなつて、ふるいで仮設に住んでいます。な
 らぬのでできるだけ早く警戒区域を解除して
 らうと、前までやっていた田んぼでの米づく
 りを再開できたらいいなと思つています。お
 ぼくのなごもうあつてほしくなっています。

東日本大震災の体験と復興への思い

木幡 廉

東日本大震災のとき、ぼくは二年生で、地震が起きた時ぼくは、二年教室で勉強をしていました。ちやうど帰るときでした。でも地震が起きたので机の下にかくれました。地震はすごいゆれでした。地震はその三月十一日の前の日にも小さな地震があったのでそれほど大きいわけでもないと思っていました。がすごいゆれでした。

今の状況は、六年生は今も半分の人数しかいません。でも楽しくやっています。学校も

無事だったし、そんなに前と変わったことはなくくらしています。今は、次、地震がきたときのため、たい震工事をやっています。ぼくは六年生なので完成した学校は見れませんが、じょうぶになってほしいです。

これからの想いは、人数が増えしてほしいのと、いつ地震がきてもだいじょうぶな学校になつてほしいと思います。まだまだ大変なことはあるけど負けないうようになって、これからもがんばってほしいです。

379 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿

氏名 鷺 恋 夢

東	日	本	大	震	災	が	起	き	た	時	、	私	は	小	学	2	年	生	
で	し	た	。	学	校	か	ら	帰	り	、	家	の	2	階	で	母	と	話	を
し	て	い	た	時	、	急	に	大	き	な	ゆ	れ	が	来	ま	し	た	。	ゆ
れ	は	ひ	ど	く	、	立	っ	て	移	動	す	る	こ	と	が	で	き	ず	、
私	と	母	は	抱	き	合	い	、	た	だ	そ	の	場	に	座	っ	て	い	る
こ	と	し	か	で	き	ま	せ	ん	で	し	た	。							
大	き	な	ゆ	れ	が	少	し	お	さ	ま	っ	た	後	、	津	波	の	情	
報	が	入	り	、	私	た	ち	家	族	は	小	学	校	に	避	難	し	ま	し
た	。	夜	は	寒	い	中	、	図	書	室	で	寝	ま	し	た	。	食	事	は
カ	ン	パ	ン	、	お	に	ぎ	り	、	果	物	な	ど	が	配	ら	れ	、	家
族	で	分	け	合	い	ま	し	た	。	食	べ	物	が	少	し	あ	る	だ	け
で	、	と	て	も	嬉	し	か	っ	た	こ	と	を	覚	え	て	い	ま	す	。
数	日	後	、	原	発	事	故	が	起	き	た	と	い	う	衝	け	き	的	
な	ニ	ュ	ー	ス	が	流	れ	ま	し	た	。	原	発	事	故	が	な	け	れ
ば	、	福	島	は	も	、	と	早	く	復	興	で	き	た	と	思	い	ま	す
当	時	は	、	福	島	産	の	物	は	全	て	危	険	、	人	ま	で	も	が
「	福	島	か	ら	来	た	人	」	と	言	う	だ	け	で	差	別	さ	れ	た
と	聞	き	ま	し	た	。	復	興	は	進	ん	で	い	る	と	思	い	ま	す
が	、	福	島	県	民	全	員	が	、	安	心	・	安	全	に	暮	ら	せ	る
「	う	つ	く	し	ま	」	に	早	く	戻	れ	る	よ	う	願	い	ま	す	。

(20文字 × 20行)

2011年3月11日午後2時46分。東日本大震災が発生しました。ぼくは、その時学校から帰、てきたばかりで、母と一緒に家にいました。ゆれがひどく、アパート1階の自宅は潰れてしまう恐れもあったので、外へ飛び出しました。寒さと恐怖に涙と体の震えが止まりませんでした。

連絡のつかなか、た祖父は、丁度その時、岩間海岸にいて、津波にのまれました。車が沈みかけた時、運良く近所の方に助けられ、九死に一生を得ました。後から話を聞き、ぞとすると同時に生きていて良かったとほ、としたことを忘れられません。岩間海岸は、津波のために、防波堤は勿論、道路もえぐられ、しばらくの間、道路は閉鎖されたままにな、ていました。

海岸近くでの津波による被害、原発近くでの放射能による被害、様々な被害が降りかかりました。一日でも早く、誰もが安心して暮らせるよう、完全な復興を願うばかりです。

2011年3月11日14時46分18秒
 東日本大震災が起こりました。地鳴りがし、
 激しいゆれが襲ってきました。ゆれは、なかな
 かなおさまらず、不安と恐怖がつのりました。
 津波警報が出され、近所に住むおじさんが私
 と祖母を避難所にな、ている中学校へ連れて
 行、てくれました。避難所に向かう途中、道
 路に津波がきました。道路は避難する車で渋
 滞していました。
 避難先の体育館は、とても寒く、毛布が配
 られました。体育館は、避難者で一杯になリ
 ました。仕事先から戻、た母と会うことがで
 きました。父とは連絡が取れませんでした。
 余震が続き、不安な気持ちのまま、体育館下
 一夜を過ごしました。父とは、翌日にな、て
 会うことができました。
 震災当日の事やその後の事を、私は少しす
 つ忘れてきているように思います。より安心
 して生活していけるよう、震災時の様子を伝
 え続けていくことが大切だと思います。

私が、東日本大震災を体験したのは、小学
 校2年生の時です。あれから4年が経とうと
 しています。でも、あの時の怖さは、今でも
 忘れることができません。

地震が起きた時、私は祖母と2人、海の近
 くにある自宅にいました。裸足のまま外に飛
 び出し、私は泣きながら祖母にしがみついて
 いました。地面にひびが入り、水がしみ出て
 きました。そして近所のおじさんが高台まで
 車で避難させてくれました。

私が住んでいる所は、あまり大きな被害は
 ありませんでしたが、ニュース等で被害の様
 子を目の当たりにし、ショックを受けました。
 亡くなった人や未だ行方不明の人もいます。
 原発の影響で故郷に帰れない人たちもいます。
 復興作業は進んでいると思いますが、悲しい
 思いをしている人たちがまだまだいます。全
 てを震災前のように戻すことは無理かも知れ
 ませんが、悲しい思いをする人が少しでも減
 っていくことを願っています。

383 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿 氏名北郷 亜海

私は、地震が起きたそのときは、まだ下校途中でした。私は、周りにいた友達と一緒に犬と遊んでました。友達の「走って」という言葉で家へ帰って、地震がおさまるまで、座って待っていました。家は、ゆれるたびに、ギシギシなり、その音でますますこわくなりました。おばあちゃんが帰ってきて、テレビをつけたら、震度7の地震で、津波が発生したと流れてました。それを聞いて、私とおばあちゃんは、高台へ避難しました。その後、お母さんとは、連絡がとれず、とても不安になりました。津波にまきこまれたのではないかと心配になりました。そんなとき、停電になり、ろうそくをつけてすごしました。電気が通らない不安とまた地震が起きるのではないかという恐怖心で胸が苦しかったです。今では復興も進んでいて、地震や津波対策をしたところもあります。しかし、復興が進んでないところもあります。私は一人一人が新しい未来を創り笑顔で暮せることを願います。

384 「東日本大震災の体験談と復興への想い」 応募原稿

氏名 多賀 珠月

平成23年3月11日午後2時46分、経験した事がない地震が起きました。

私はその時、学校から帰、て友達と遊んでいた時間でした。ゆれに気づき、その場に座りこめました。がどんどんゆれが激しくな、たと同時に、近くにいた地域の人達が私達を見つけてくれてい、しょに避難しました。私の家は海が近く、遊んでいた場所も海の近くだったので地域の人達が見つけてくれたが、たら波にのまれていたかもしれないと思うと、

今でもぞ、とします。

これから、東日本大震災のような地震が起こりうるかもしれない。そんな時に一人でもぎせい者を出さないためにも、津波を回避できる堤防を作、たり、すぐに地震と知らせてくれる物を作、たりと体験したからこそ、とこれからのことを考えていく必要があると思います。今後は、地震が起きても大丈夫なような街を造り、人と人とが助け合、て暮していけるようになってほしいと思います。

385 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿 氏名 遠藤 陽紀

私が小学2年生の3月11日に東日本大震災が起こり、今も思い出すたびに恐怖心におそわれます。

私が学校から帰、てきた直後、突然大きくゆれ、そのゆれは長く続いたのでとてもこわかったです。あまりにも大きな地震だったので、お父さんが外に出るように言い、家族全員で外に出ました。その時、私の家はすぐ目の前が海なので町内を消防団の人達が「もうすぐ津波がきます。すぐに高台に避難してください。」

と言いながら鐘を鳴らして知らせてくれました。あわてて車に乗りこんだしゅん間、第一波といわれる津波が堤防をこえるのを見たときはこわくて仕方ありませんでした。そして、お父さんの友達の家にお世話になりました。

震災から今年で4年目になりますが、この東日本大震災で学んだことを伝え続け、万 one のとき誰かの命を救うことができるよう、これから訓練等をしていく必要があります。

386

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿

氏名 岡田 万祐子

私は、東日本大震災の時、学校から帰った
 ばかりでした。家は大きくゆれ、それと共に
 ゴゴゴゴと音がしました。私はゆれがおさま
 るまで、机の下にいました。とっせんの事を
 ったので、「び、くり」という思いと、「たわ
 い」という思いが重なりました。ゆれがおさ
 まり、テレビをつけ、情報を確にんしました。
 すると、津波けい報が出ていたのです。私は
 急いで家族と外へ出て、車に乗りこみました。
 まわ、勿来の関へ行きましたが、文学歴史館
 の門が開いていませんでした。次に、中学校
 へ行きました。そこで一夜をすごしました。
 次の日、家にもどると、たなの食器が一部わ
 れていたり、かべにかけていた時計がゆかに
 落ちていたりして大変でした。それからは、
 原発事故で、外遊びが制限されたり、マスク
 をつけたりしなくてはなりませんでした。
 これからは、またこのような地震が起こ
 ても、対応できるようにしたいです。また、
 自分にできる事に取り組んでいきまいます。

(20文字 × 20行)

387 「東日本大震災の体験談と復興への想い」 応募原稿 氏名 銅木 建佑

東日本大震災が起きてからもう少して4年
 がたちます。当時、ぼくは1年生で地震が起
 きた時は、祖母の家でいところや家族と一緒に
 いました。最初にきた弱い地震の時、ぼくは
 ふさげて「地震だあ。」とこたつの中にかく
 れました。ですが、いきなり強い地震がおき
 て、ブロックがくずれる音がしました。そし
 て外に出てみるとブロックや近所の家の屋根
 がこわれているのが目に入りました。まわり
 の大人もどうしていいか分からない状態で1
 年生ながらも人生の終わりを感しました。
 その時の事を思い出し、その地震で出来た
 ひびを見たりすると、あの時の恐怖がよみが
 え、てきます。他の県の人達が福島県のため
 に復興支援してくれてる事を思うと感謝の気
 持ちでい。ばいになります。震災だけでなく
 原発事故で苦しめられている人もいます。一
 人一人の力は限られてしまっけれど、みんな
 で協力すれば無限大の力になるので、ぼくも
 苦しんでいる人の力になりたいです。

388 「東日本大震災の体験談と復興への想い」 応募原稿

氏名 長谷川 太一

平成23年3月11日、今まで感じた事のないくらい大きな地震を体験しました。

その日、ぼくは学校から帰り、ランドセルをおろすと、立っただけなのに、はげしいゆれがあり、とてもおどろきました。ゆれが落ちつき、家族と外に出ると、「ゴゴゴ、バキバキ」と地面がうなつて、まるでものすごい音が聞こえました。それは、地面がわれた音でした。ぼくは、こわくてふるえがとまらなくなりました。すぐに家の中に入り、家族みんなと一緒に避難しました。すると、大きな津波がおこり、火災がおきている場所がありました。ぼくの住んでいる地域は、電気や水道が止まり、大変不便を感じました。しかし、いろいろな人達の助けや協力のおかげで生活できました。たくさんの人に守られた事がとてもうれしかったです。

この体験を通し、日ごろから災害に備えておくことが大切だと思います。

僕は小学4年生のとき帰りの会が始まろうとしていたときに東日本大震災が起きました。当時僕はいきなり大きい揺れが来たので、何が起きているのかまったくわかりませんでした。状況を把握することができたのは余震が続く中、自宅に帰宅したときでした。テレビをつけてみると、初めて震源地が東北の太平洋沖だということを知りました。その夜、緊急地震速報が何回もあったことは今でも鮮明に覚えています。あれからまもなく4年、僕が住む会津若松市は被害が少なかったため、すぐにインフラが復活しましたが、原発事故で避難区域になってしまった地域はまだ2011年の3.11のままなのかなと思います。何十年後かに原発事故の処理がすべて終わり、震災のショックから立ち直って復興したら、福島県は原発を日本に残すのか考えてほしいです。僕は原発がメルトダウンを起こしても大丈夫な設備を付けることなどをしなければ原発は安全に使えないと思います。

390 「東日本大震災の体験談と復興への想い」 応募原稿 氏名 佐藤 里 亜

私は、とくに大きな被害はありませんでしたが、でも一方ではまだ自分の故郷ふるさとに帰れずにいる人が、たくさんいるという事が現実です。普段、寝て起きたら一日が始まるという毎日。それが当たり前のことに思えて、とても幸せなことなんだと、改めて感じさせられた出来事でした。

今、復興しつつあ東北ですが、本当に復興しているのでしょうか。お店などは賑わいが戻ってきてるところもありますが、個人面では不安などがまだたくさんあると思います。

も、とも、と多くの人々の声を聴いてほしいです。

明るい未来のために、も、とできることはないのでしょうか。

みんなの笑顔が戻、た時こそが本当の復興と言えるのだと私は思います。

東北に、明るい未来を。

東北に、たくさん笑顔を...

391

「東日本大震災の体験談と復興への想い」 応募原稿

氏名 渡部 圭大

2011年3月11日東日本大震災が起こった。僕の住む会津は道路の陥没などの被害はあったが、他ではその規模ではないことを後に知った。僕はまだ小学四年生で、事の大きがいまいち分かっていなかった。あれから4年目を迎えようとしている。瓦礫は取り除かれ、建物や道路も元通りになり徐々に復興が進んでいるように思われる。しかし実は避難の長期化による震災関連の死者が福島にはとても多い。まだまだ災害は続いている。一体僕には何ができるだろう。プリツカー賞を受賞した建築家の坂茂さんは、自分の仕事を通して何か出来ることはないか考えた。そして共同の空間である体育館に、紙と布で避難中のプライバシーを守る個室を作った。その空間がどれだけみんなの気持ちを救っただろう。まずは福島の現状を把握し、他人事にはしない。今は無力かもしれないが、少しでも役立てるよう、視野を広げ、多くの知識を持ち必ず福島を元の姿に戻したい。

(20文字 × 20行)

下校途中に突然大きなゆれを感じた。道路
 を走っていた車は、たて、横にゆれていた。
 当日1年生だ。たぼくには、どうすることも
 できなかつた。ひとまず家に帰ることだけを
 考え走った。いつもより家が遠く感じ、そし
 て風は強くなり、雪がふりわけがわからなくな
 った。しゃかんで頭をおさえた。そうして
 いるところにおばあちゃんが車でむかえに来
 てくれた。ぼくは安心して車に乗った。家に
 着くと、停電していて水もでなかつた。その
 時水と電気の大切さありがたさを知った。電
 気が復旧してテレビをつけたときぼくは、自
 然のおそろしさを知りぼうぜんとした。津波
 が町におしよせ、家、物、そして人の命をう
 ばっていたのだ。今も復旧作業が続けられ
 ているが、一つ一つ受け入れ、またもとどお
 りの生活ができるように一人一人がかんば
 っていかなければいけないと思う。

東日本大震災の時ぼくは小学1年生でした。
学校から帰るとすぐにじいさんがおきたので、す
わ、とおさまのきま、ていたら二回目のじ
いさんのときに大きいのがきたときに下からじ
いちゃんかきたので、じいちゃんといっしょ
に外にでました。外にでて少しするとじいさん
がおさま、たので家の中に入りました。じい
さんがおきた日は電気がつかなか、たのでカッ
プラーをポットにのこ、ていたお水でた
べました。その日は、またじいさんがくまも
してな、たので下で寝ました。夜もな、人も
か、たので、たけと家族がいてよ、た、た
思いました。

ぼくは、震災前から野球をしていて、震災の
 時は大好きな野球ができなくて、とても悲し
 い時がありました。でも、かんとかヤコーチ
 、お父さんやお母さん達がぼくらのために、
 なんとか野球ができるように、室内でできる
 所を調べてくれたり、練習内容と時間も変え
 てくれて、今では野球ができるようになりました。
 でもまだまだほうしやのうを長にする
 人がいて、屋外でするスポーツをする人がい
 なくて来ません。震災後一生けん命、野球を
 できるようにしてくれた、みんなにお礼をし
 たいと思うけれど、それには、野球を外で
 やっても大丈夫だと言えるようにほうしやの
 うをもっともっとなくしてほしいと思います
 っはっ練習をして強くなつてかんとかヤコ
 ーチ、お父さん、やお母さん達に本当にあり
 がたうと言いたいです。みんなの悲しい長持
 ちと、ほうしやのうを早くなくして下さい。

2011年3月11日金曜日の午後2時45
 分ごろ東日本大震災がおきました。その時、
 ぼくは、1年生でした。スイミングスクール
 へ行くため、車におばあちゃんと乗って、エ
 ンジンをかけようとしたら、急大きな地震が
 おこりました。そのとき家には、おじいちゃ
 んと、妹の2人しかいませんでした。大きな
 地震の時、げんかんの戸がはずれてしまっ
 たのを、おばあちゃんがはめに行きました。
 そして、ゆれがおさまり、ぼくは、家の中へ
 かけこみました。そしてぼくの家は、部分的
 に、停電しながら、たのて、こたつにもぐって
 おやつもご飯がわりにして1日をすごしまし
 た。3月12日の午前中からおばあちゃんは、
 買い物へ行きました。そして約1週をこた
 つですごしました。その1週間は、とてもこ
 わく、て、ず、と不安でした。
 これから、また大きな地震がないとは、
 だれも言いきれないので、大きな地震がきて
 も、あせらず、れい静に行動してください。

学校から帰、てくる時、地震がおきました。
 最初は、弱いのでふつふの地震だろうと思、
 ていました。そつするくだんだん強くな、て
 いき、とてもおどろきました。だんだんこわ
 くな、ていき、いそいで帰ろうと思、地震が
 少し弱くな、た時走、て帰りました。途中で
 祖母が車でむかえに来たら雪がふ、てしまし
 た。家について祖母に「強いやれてながさか
 立てなが、た」とい、ていました。それから
 の私は、ぼーとしていました。なぜかという
 とす、と電気がこなが、たらどうしようとい
 う暗い気持ちにな、ていました。そして一
 日を終えました。次の日避難所の人から「電気き
 ましたよ。」といいたき、てくれました。私はほ
 っとなりました。私は津波で人の命をうば、た
 りする地震を許せません。まりはやくおれき
 をて、去してほしいです。それま、りもいまだ
 行方不明の人たちをた、つけ、もとの生活をま
 りはやくおくら、て、みんなが幸せにな、てほ
 しいと思、ています。

397

「東日本大震災の体験談と復興への想い」 応募原稿

氏名 酒井 伶菜

東	日	本	大	し	ん	災	が	起	き	て	か	ら	ま	も	な	く	4	年		
か	た	と	う	と	し	て	い	ま	す											
福	島	県	で	は	、	浜	通	り	の	海	に	面	し	て	い	る	地	域		
で	は	災	害	が	起	こ	り	、	多	く	の	人	々	が	亡	く	な	っ	て	
し	ま	い	ま	し	た	、	自	然	災	害	は	、	今	も	火	山	ふ	ん	火	
な	ど	続	い	て	い	ま	す	、	だ	か	ら	、	い	っ	起	き	て	も	お	
か	し	く	な	い	で	す	、	私	は	、	何	も	な	い	時	に	ど	う	や	
っ	て	り	な	ん	を	す	る	か	な	ど	真	剣	に	考	え	て	み	よ	う	
と	思	い	ま	す	、															
ま	た	、	国	ど	う	し	の	戦	争	は	、	人	間	ど	う	し	で	殺		
し	あ	っ	て	い	る	の	に	な	く	な	ら	な	い	、	平	和	で	戦	争	
が	な	い	日	本	に	住	ん	で	い	る	の	だ	か	ら	、	も	っ	と	災	害
を	防	ぐ	こ	と	に	み	ん	な	で	心	が	け	て	い	き	た	い	で	す	
が	レ	キ	撤	去	の	作	業	は	進	み	、	し	ん	災	前	の	よ	う	な	
な	元	に	も	ど	っ	て	い	ま	す	か	、	今	は	、	徐	々	に	元	の	
状	況	に	も	ど	っ	て	き	て	い	ま	す	が	、	ま	だ	ほ	ん	の	一	
部	し	ん	災	時	の	ま	ま	の	と	こ	ろ	が	あ	り	ま	す	が	、	地	
域	の	み	ん	な	で	支	え	ち	な	っ	て	、	復	興	を	願	い	た	い	と
思	い	ま	す	、																

私が住んでいる福島県では、東日本大しん
 災がありました。
 福島県の海沿いにある原発が地しんで爆発
 したり、つ波がきたりなどして、死者行方不明
 者が多くでてしまい放射能もでて、外遊びが
 少なくなり肥まん鬼が増えるなどの被害が多
 くなつてしまいました。今では東京電力の方
 が原発からでる放射能を押さえるために、
 色々やっているそうです。ひな人した人も
 いっぱいいたようです。早くひな人した人の
 ためにも、復興をしてほしいです。しん災か
 らひな人して、転校した子どもがいじめのにあ
 ったりなどの差別がありました。なので、復
 興をしたら、いじめなどがなくなり、人口も
 増えて、発てんするかもしたませ人し、逆に
 まだ心配をして、もどらないという方々もい
 ると思います。それに、各市の名物も、早く
 もとにもどつて来てほしいと思います

2011年3月11日に東日本大震災がおさま
 した。私は1年生でした。こっせん大きなゆ
 れがきて、みんな外に出て行きました。今ま
 でにない体験だったので、すごくこわくてし
 かたがありませんでした。その後、いそいで
 バスに乗り、家に帰りました。家に帰ると家
 族がいました。その時私は、ほ、としました。
 今、ちょうど4年がたちました。今でも、少
 しのじしんがあると、びっくりします。つな
 みが来なくてよか。たなと思りことがたくさ
 んありました。浜通りの人たちは家をつなみ
 でなくしてしまいました。すごくかわいそク
 だなと思います。死んでしまった人もいます。
 すごく悲しいです。私は今後進むべき復興は
 家族をなくした人たちが少しでも元気になる
 ように、お店や家をなくした人たちのお店や
 家が少しでも、もどにもどるようになれたい
 いなと思います。

東日本大震災でいろいろな体験をしました。
 あんな大きな地震は初めてでした。私は、ま
 だ一年生だ、たので、地震がな、た時に、初
 めはすごくこわが、たです。でも、とんどん
 おさま、て来たときはよか、たと思いました。
 あと体験したことは、お店に行、た時に、コ
 ンビニにある品が少なか、たり、お店が開い
 ていなか、たりしていてび、くりしました。
 朝早くまだお店がや、ていないときに行、た
 ときもありました。このような体験は初めて
 でした。こわい事とび、くりした事はかりな
 いた。
 震災前みたいに、外で自然に遊べたり、食べ
 物を震災前みたいに食えられるようになった
 り、何もかもだ、震災前みたいになればいい
 なと思いました。震災前みたいになるために
 私も、なにかできる事があればいいなと思
 います。大人になったら、もっと協力する事が
 できると思うので、今からも、もっと未来の
 事を考えて協力していきたいなと思います。